

## 組手試合規約

### 【審査基準】

審判員および審議員は同等の権限を持って競技の審査に当たるが、競技に関する最終決定はすべて審判長の裁決による。試合結果については、選手とその関係者は、審判員や主催者に対して、異議を一切申し立てることはできない。

### 【勝敗の決定方法】

組手の勝者は、一本勝ち・技あり 2 本による合わせ一本勝ち、判定勝ち、相手の失格ないし棄権による勝ちにより決定される。勝敗の決定は原則とし、最高審判長の判断で変更することもある。

#### ■一本勝ち

- ① 反則箇所を除いて、突き、蹴り、肘打ち等を瞬間的にきめ、相手選手を 3 秒以上ダウンさせるか、一時的に戦意を喪失させたとき。

#### ■技あり

- ① 反則箇所を除いて、突き・蹴りを的確に決め、相手選手が一時的にダウンし 3 秒以内に立ち上がったとき。
- ② 相手選手が倒れないまでも、有効な攻撃でバランスを崩したり戦意を喪失したとき。
- ③ 足掛け技を含めて、ダウンさせた相手をタイミングよく下段突きで決めたときはタイミングによって技ありとする事もありうる。
- ④ ジュニアなど、ヘッドガード(防具)着用時は、タイミングよく的確に上段廻し蹴りがヒットした場合は技ありとする。
- ⑤ 高校生以下は、前蹴りが的確に入り尻餅をついた場合も技ありとする。
- ⑥ 技ありは 2 本で一本勝ちとする。

#### ■判定と延長戦

- ① 試合時間内に一本勝ちで勝敗が決まらない場合は、判定で決定する。
- ② 判定は、主審 1 名、副審 4 名のうち、3 名以上の判断で決定するが、主審 1 名、副審 4 名のうち 3 名以上の審判の判断が無い場合は引き分けとし、延長戦、再延長戦を行う。  
※但し再延長戦は決勝戦のみに行い、それ以前の試合では延長戦で勝敗を決する。
- ③ 延長戦を 2 回繰り返しても決まらない場合は、体重の軽い方を勝者とする。

### 【反則】

- ① 手、肘による顔面および首への攻撃。
- ② 金的蹴り、頭突き、倒れた相手への攻撃。
- ③ 小学生以下、顔面への膝蹴り。
- ④ 相手の道着、手足を掴んだり、首から上を手掛けての攻撃。
- ⑤ 相手の背後からの攻撃。
- ⑥ 相手を掌底で押した場合。
- ⑦ 故意に転倒し相手に攻撃させない場合。
- ⑧ 何度も場外に出た場合。但しこれも審判の判定に委ねる。
- ⑨ 以上の他、主審が反則とみなした場合。  
反則は悪質なものを失格とし、それ以外は注意が与えられ、注意 2 回で減点 1。減点 2 で失格となる。悪質な反則は 1 回で減点とする場合がある。(故意の顔面殴打、掴み等)

### 【礼節】

武道の試合は勝敗以上に礼節が大切であることに留意する。試合は字の如く試合であり勝敗を決する以上に学びの場である。学びの場とすることが極真手塚グループの拠って立つべきところである。試合中も武道家らしく心静かに興奮せず、審判など周りが見えている状態を維持する。

- ① 試合場に入退場時及び試合開始終了時には丁寧に礼をする。
- ② 勝敗が明らかな場合に追い打ちをかけない。
- ③ 相手を見下した態度をとらない。
- ④ 必要以上の審判に対するアピールをしない。
- ⑤ 勝った場合や技ありを決めた場合、勝利をアピール(ガッツポーズなど)する態度をとらない。
- ⑥ 敗者は下を向いたり不満を表したり惨めな態度をとらない。
- ⑦ 勝敗ではなく、試合そのものを互いに称え合う姿勢で終了する。
- ⑧ 選手のコーチや応援団などは、野次、罵声、相手を揶揄するなど礼節を欠く声援を慎む。
- ⑩ 選手以外は試合後も決して試合場に入らない。(抱き合う、胴上げなど)
- ⑪ 態度や形以上に心のありようが大切であることを知る。審判の判断により、以上のことが著しく欠く場合は、反則または失格をとる場合もある。

## 組手試合規約

### 【失格】

- ① 減点が2になった場合。
- ② 試合中、審判員の指示に従わない場合。
- ③ 出場時刻に遅れたり、出場しない場合。
- ④ 粗暴な振舞い、悪質な試合態度及び悪質な反則など、主審が失格とみなした場合。

### 【棄権・欠場】

正当な理由なくして試合を放棄してはならない。但し下記の場合は例外とする。

- ① 大会主治医の診断を受けたその結果、試合続行不可能と見なされた時。
- ② 試合直前または試合中、本人に関係する不慮の事故が発生し、審判長が退場を許可した時。
- ③ その他、審判長が退場を許可した時。

### 【その他】

- ① 試合中に起きた負傷は、応急処置以外主催者は責任を負わない。各自スポーツ安全保険に加入する。
- ② 選手は健康保険証を持参のこと。
- ③ 選手は清潔な空手着を着用し、背中にゼッケンを付けること。
- ④ 防具着用以外のサポーター、テーピングは原則認めない。許可を求める時は、医師の診断書を添えて主催者の承認を得ること。
- ⑤ 会場では係員の指示に従い速やかに行動してください。
- ⑥ 対戦相手、審判に野次や罵声をかけた者は即刻退場させ、以降出場停止。

### 【最新規約】

極真手塚グループ公式サイト掲載規約が最新版であり優先します。<https://karate-tezuka.net/>

大会は以下の構図によって構成される。

#### ■ 試合の進行

一般男子	本戦：3分	延長：2分	再延長（決勝戦のみ）：2分
一般女子 シニア男女 高校生男女、中学生男女	本戦：2分	延長：2分	再延長（決勝戦のみ）：2分
小学生、幼年	本戦：1分半	延長：1分半	再延長（決勝戦のみ）：1分半

区分	ヘッドガード	拳	脛	膝	ファールカップ	女子胸ガード
小学男子の部	○	○	○	任意	○	×
小学女子の部	○	○	○	任意	任意	任意
中学男子の部	○	○	○	任意	○	×
中学女子の部	○	○	○	任意	任意	○
高校男子の部	○	○	○	任意	○	×
高校女子の部	○	○	○	任意	任意	○
シニア男子の部	○	○	○	任意	○	×
シニア女子の部	○	○	○	任意	任意	○
一般男子の部	×	×	×	任意	○	×
一般女子の部	×	×	×	任意	任意	○

※ヘッドガード(フェイス部分網有)は主催者側の準備するものを使用し、それ以外は使用不可。

※ファールカップはズボンの内側に着用すること。

※拳サポーターは白の布製を使用すること。皮革製のサポーターは使用不可。

※女子チェストガードは硬質プラスチック製のものを除く。

※女子選手インナーT シャツの色は白限定とする。

※テーピング類は大会ドクター(救護士)のチェックを受けたもののみ許可する。ハードテープは使用不可。

## 型試合規約

### 【審査基準】

審判員および審議員は同等の権限を持って競技の審査に当たるが、競技に関する最終決定はすべて審判長の裁決による。試合結果については、選手とその関係者は、審判員や主催者に対して、異議を一切申し立てることはできない。

### 【勝敗の決定方法】

型の勝者は、判定勝ち、相手の失格及び棄権による勝ちにより決定される。

### ■勝敗形式

#### (2名の選手の優劣で競う場合)

判定は、3名または5名の審判員がどちらか一方の旗を掲げて行う。引分は無い。主審のみの判断は認めない。但し、審判員はそれぞれに意義を申し立て協議する権利を有する。

### ■上位得点形式

#### (3名以上の選手の優劣で競う場合)

審判員5名以上の得点形式で行う。最下位と最上位の得点をのぞいた合計点(ないしは平均点)で競う。大会ごとに規定された人数の上位者が勝ち残る。

### ■判定内容

型の種類や内容は各道場・流派・会派を尊重し判定対象としない。

- ① 礼節・気迫・気合
- ② 身体全体を使った雄大さ・優美性・表現力
- ③ 柔軟性・技の連動性
- ④ 下半身の安定・運足
- ⑤ 技の緩急・切れ、動作の機敏性

※勝敗形式の場合は各項目に優劣をつけ3項目以上とった方に審判員は旗を掲げる。

※上位得点形式の場合は各10点、計50点を審判員1人の得点とする。

### ■減点

- ① 静止状態の極め動作で2秒以上、(それ以外の所で1秒以上)経過した場合、技の順番を見失ったとみなし、全体評価「③技の連動性」において、1回毎に2点減点する。但し、「平安Ⅲ」の結び立ちから前蹴りを出し騎馬立ちに移動する箇所など、型の必然であればこの限りではない。
- ② 移動中のつまづき、バランスを崩した場合、「④下半身の安定と運足」からその度合いに応じ2~4点減点する。
- ③ 礼を失する場合は「①礼節・気迫・気合」からその度合いに応じ2~4点減点する。

### 【反則】

- ① 相手の演舞を邪魔する行為

### 【礼節】

武道の試合は勝敗以上に礼節が大切であることに留意する。試合は字の如く試し合であり、勝敗を決する以上に学びの場である。学びの場とすることが極真手塚グループの拠って立つべきところである。試合中も武道家らしく心静かに興奮せず、審判など周りが見えている状態を維持する。

- ① 試合場に入退場時及び試合開始終了時には丁寧に礼をする。
- ② 相手を見下した態度をとらない。
- ③ 必要以上の審判に対するアピールをしない。
- ④ 勝利をアピール(ガッツポーズ等)する態度をとらない。
- ⑤ 敗者は下を向いたり不満を表したり惨めな態度をとらない。
- ⑥ 勝敗ではなく、試合そのものを互いに称え合う姿勢で終了する。
- ⑦ 選手のコーチや応援団などは、野次、罵声、相手を揶揄するなど礼節を欠く声援を慎む。
- ⑧ 選手以外は試合後も決して試合場に入らない。(抱き合う、胴上げなど)
- ⑨ 態度や形以上に心のありようが大切であることを知る。審判の判断により、以上のことが著しく欠く場合は、反則または失格をとる場合もある。

国際空手連盟総本部極真会館手塚グループ  
型試合規約

**【失格】**

- ① 試合中、審判員の指示に従わない場合。
- ② 出場時刻に遅れたり、出場しない場合。
- ③ 礼節を欠いた態度を取った場合。

**【棄権・欠場】**

正当な理由なくして試合を放棄してはならない。

但し、下記の場合は例外とする。

- ① 大会主治医の診断を受けたその結果、試合続行不可能と見なされた時。
- ② 試合直前または試合中、本人に関係する不慮の事故が発生し、審判長が退場を許可した時。
- ③ その他、審判長が退場を許可した時。

**【その他】**

- ① 試合中に起きた負傷については、応急処置以外主催者は責任を負わない。各自スポーツ安全保険に加入する。
- ② 選手は健康保険証を持参のこと。
- ③ 選手は清潔な空手着を着用し、背中にゼッケンを付けること。
- ④ サポーター、テーピングは原則認めない。  
許可を求める時は、医師の診断書を添えて主催者の承認を得ること。
- ⑤ 会場では係員の指示に従い速やかに行動してください。
- ⑥ 対戦相手、審判に野次や罵声をかけた者は即刻退場させ、以降出場停止。

**【最新規約】**

極真手塚グループ公式サイト掲載規約が最新版であり優先します。<https://karate-tezuka.net/>